ウェビナー

Panasonic

LMS選定で後悔しないために

～次世代の学修基盤を支えるLMS選定の考え方～

2026年11月17日

パナソニック デジタル株式会社

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

本日の発表者



辻 本　直 樹
Tsujimoto　Naoki

パナソニック デジタル株式会社
営業推進統括部
教育・施設ソリューション営業推進部
西日本営業所

【経歴】
2015年～　某SIer教育市場営業
2024年～　パナソニックIS（現パナソニック デジタル）に転職。
教育・自治体向けソリューションの提案・販売を担当

【活動】
大学向けPC教室管理システムや各種アプリケーションなど、幅広いITソリューションの提案を実施。 教育市場12年の経験を活かし、お客様の課題解決を支援しています。

【趣味】
ジョギング（ダイエット）、ピクニック（妻、娘(3歳、0歳)の4人で）



加 藤　貴 洋
Kato　Takahiro

パナソニック デジタル株式会社
アナリティクスプラットフォーム統括部
インテグレーション ソリューション部
エキスパート

【経歴】
～2015年　パナソニックグループの事業会社IT部門において、製造業向けERP導入プロジェクトに従事
2016年～ パナソニックISに転籍。2023年より一般市場向け施設・教育ソリューションを担当

【活動】
今年度、Instructure社とのパートナー契約締結を契機に、Canvas LMS(SaaS)の日本市場への導入拡大を推進中。

【趣味】
マラソン（フルマラソン年2回）

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

本日の目次

第1部

機能比較では見えてこないLMS選定の勘所

1. LMS見直しの背景
2. LMSリプレースでよくある失敗
3. LMS選定で見るべき評価軸
4. まとめ：失敗しないLMS選定の勘所

第2部

次世代LMSと移行成功のポイント

1. LMSの役割はどう変わるのか
2. プラットフォーム／エコシステム視点
3. Canvas LMSに見る次世代LMSの方向性
4. 日本の大学運用に求められる要件
5. LMS移行で見落とされるポイント

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

全体メッセージ

✓ 従来の選定軸は、機能・価格・現行運用との適合性が中心だった

- 教育DX・AI活用が進む今、LMSに求められる役割が変わる

✓ これからのLMS＝学修基盤の中核

- 学習データ・動画・外部教材・教務／認証基盤をつなぐ中核へ
- 機能・価格だけでは見えない、教員の活用定着・運用負荷・システム連携
- 国内の大学運用に適合しながら、AI・データ活用・外部連携へ拡張できるか

✓ 見落とされがちな最重要論点 ＝「移行性」

- 「導入できるか」ではなく「無理なく移行できるか」

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

第1部

機能比較では見えてこないLMS選定の勘所

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

1．LMS見直しの背景

なぜ今、LMSの見直しが始まっているのか ― 見直しの契機

1	LMS更改時期の到来	保守期限や契約更新が重なり、現行LMSの棚卸しが始まる
2	教員・学生のUX要求の高まり	使いにくさへの声が蓄積し、現行LMSの限界が表面化する
3	教育DX・AI活用・学習データ活用への期待	全学のDX方針・AI活用方針の策定が、検討を後押しする
4	外部システムとの連携ニーズ	教務・認証・外部教材との個別連携が限界を迎える
5	継続的に成長できる基盤への転換	その場しのぎの入替ではなく、将来を見据えた再設計へ

LMSの役割変化

これまで
授業支援システム
教材配信・課題提出・成績管理

→

これから
学修基盤の中核
AI・学習分析・動画・外部教材・教務／認証連携

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

2．LMSリプレースでよくある失敗

導入後の定着と運用を見落とす

パターン①　機能一覧の比較だけで選ぶ

▶ 導入はできても、教員の活用定着や授業改善につながらない

パターン②　価格だけで選ぶ

▶ 導入後の運用工数やサポート負荷が増え、現場負担と結果的な総コストが膨らむ

パターン③　移行計画を軽視する

▶ 教材・コース移行が想定以上に大変になる

▶ 教員への説明・支援が後手に回る

▶ 学期開始や並行運用のスケジュールに影響が出る

失敗は「導入できたかどうか」ではなく、導入後の活用定着・運用負荷として現れる
― とりわけ見落とされやすいのが「移行性」

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

3．LMS選定で見るべき評価軸

LMS選定時の5つの評価軸：導入前から移行後までを見通す

1	利用者視点	学生・教員それぞれの使いやすさ（UX）
2	運用視点	運用負荷の軽減と、セキュリティ対策・復旧体制
3	連携性	教務／Microsoft 365／認証基盤・外部サービス、将来の拡張性
4	データ・AI活用視点	Learning Analytics・AI活用・教育データ活用への発展性
5	移行性	教材・コース／ユーザー情報の移行、教員展開、並行運用・学期切替

評価すべきは「今の機能の多さ」ではなく、導入前から移行後までを通した5つの視点

特に④データ・AI活用と⑤移行性は、従来の選定であまり議論されてこなかった軸　― この2つを入れるかどうかで、5年後の姿が変わります

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

4．第一部まとめ：失敗しないLMS選定の勘所

✓ LMS選定で重要なのは「今ある機能の多さ」ではない

- **教員・学生に定着するか／運用しやすいか**
- **外部システムとつながり、データ・AI活用に発展できるか**
- **無理なく移行できるか**

◆ 第2部へのブリッジ

教育DX・AI活用が進む中、今後の学修基盤に求められる役割とは。

後半はCanvas LMSを例に、柔軟に拡張でき日本独自の運用にも対応する次世代LMSの姿と移行成功のポイントをご紹介します

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

第2部

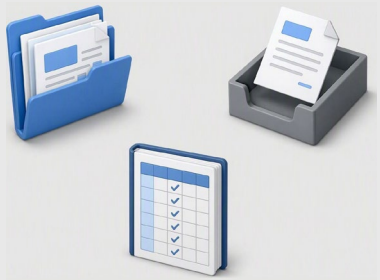
次世代LMSと移行成功のポイント

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

1．LMSの役割はどう変わるのか

授業支援システムから、学修基盤の中核へ

これまでのLMS



・教材配信
・課題提出
・成績管理
・授業単位の運用を支えるツール

授業単位で閉じたツール

これからのLMS



・AI活用／学習分析
・動画配信
・学習履歴の蓄積・活用
・外部教育サービスとの接続

教育DXエコシステムの接続点

AI・学習分析・動画・学習履歴、そして外部教育サービス
をつなぐ学修の基盤へ

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

2．プラットフォームとエコシステム

単体製品ではなく、つながる基盤として評価する

他業界で起きた主役交代

Microsoftの事例

Lotus 1-2-3

一太郎

dBASE

→ Windows / Outlook / Office

iPhoneの事例



おサイフ

ワンセグ

防水

軽量

→ App Store / サービス / クラウド

評価軸の変化

個別機能の比較	➡	**エコシステムの比較**
完成度	➡	**拡張性**
導入時の価値	➡	**継続的に増える価値**

二つの事例から得られる三つの示唆

① 機能比較の優位だけでは勝てない

個別機能に加え、製品・サービスとのつながりを見る

② 評価の焦点は、生まれる体験と価値

完成度だけでなく、拡張性と継続的に増える価値を見る

③ 変化を待たず、評価軸を見直す

主役交代は渦中では見えにくい。評価軸を先に動かす

教育分野での接続先

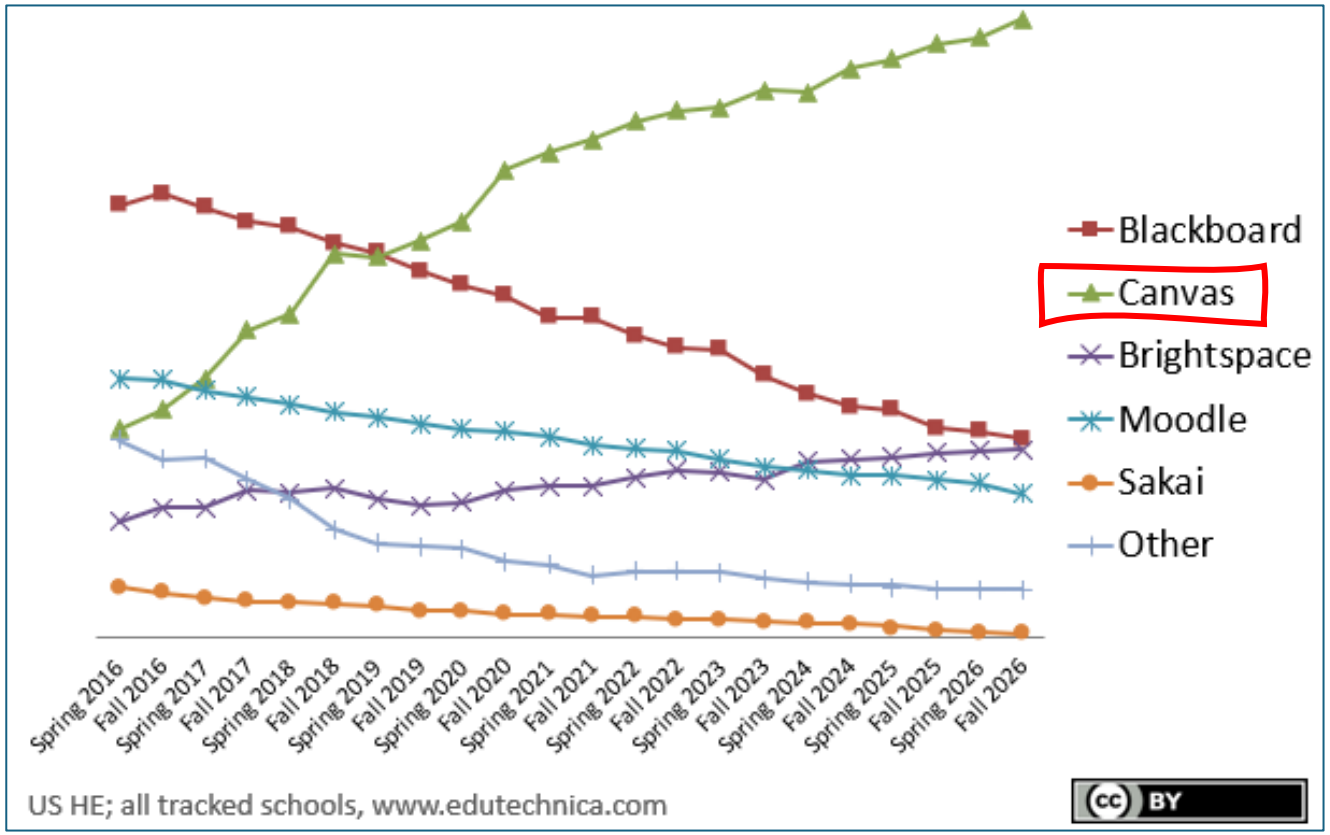
- AI／学習データ
- 動画・教材
- 認証・教務基盤

LMSは教育DX基盤の接続点（ハブ）

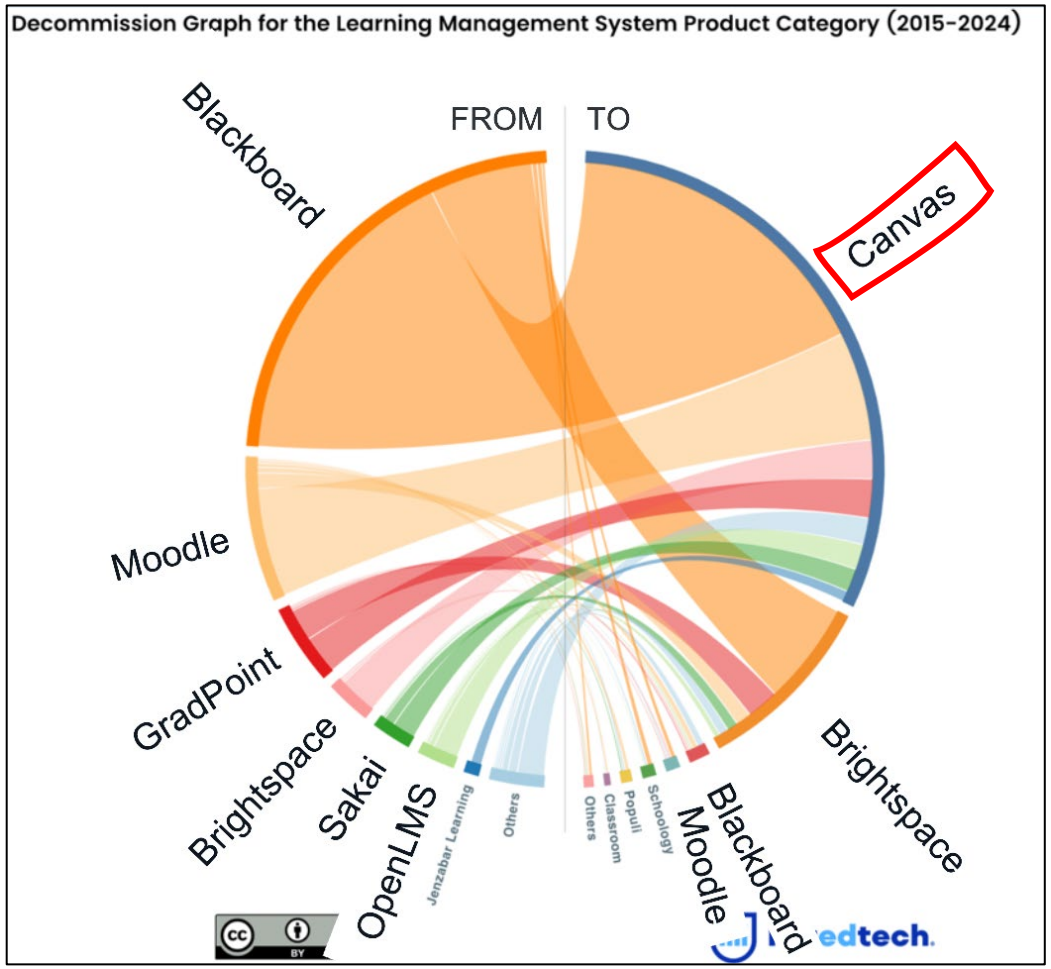
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

3．Canvas LMSに見る次世代LMSの方向性

参考掲載）米国高等教育市場におけるLMS採用状況



出展元：Edutechnica 14th Annual LMS Data Update（2026年9月27日）
https://edutechnica.com/2026/09/27/14th-annual-lms-data-update/



Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

3．Canvas LMSに見る次世代LMSの方向性

柔軟に拡張し、国内運用にも適合する基盤

第１部で紹介した「LMS選定で見るべき5つの評価軸」で、次世代LMSの考え方を確認する題材としてCanvas LMSを紹介します

評価の視点	Canvas LMS（SaaS）に見る特徴
利用者視点	シンプルなUI／学生・教員のUX
運用視点	１）可用性：継続的な更新・監視で安定運用を支援 ２）有事対応：24H体制のフォレンジック調査、脅威アクターとの交渉 データ保護・授業再開を支える技術・専門体制、財務基盤・実績
連携性	API／LTI／外部サービス連携／ベンダーロックインを避けやすいオープンな接続性
データ・AI活用視点	Learning Analytics／授業改善を支えるAI活用
移行性	教材・コース／ユーザー・履修情報の移行、教員展開・研修、並行運用・学期切替への対応

次世代LMSの方向性
「完成された機能の多さ」ではなく、大学ごとのニーズに応じて柔軟に拡張でき、日本独自の運用にも適合し、導入後も継続的に発展し続けられる基盤であること。

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

4． 日本の大学運用に求められる要件

標準機能だけでは届きにくい日本独自の要件に対するSaaSでの補完

よくある日本独自要件
教務システムの独自フォーマット・差分連携、大学固有項目の保持
クォーター制・合併科目・教室別展開などの履修構造
多様な授業形態に対応した出席管理
講義収録・動画配信、試験時の本人確認・不正防止
学修成果の科目横断での可視化と、他LMSからの教材・コース移行

コアに手を入れず、4つの層で満たす

- **基礎** — **標準機能**
  まず作らずに済む範囲を最大化し、独自開発を最小化

補完・強化ポイント

- **2層** — **管理・連携拡張**
  教務システム連携と大学固有のデータ構造に対応
- **3層** — **学習データ基盤**
  指標設計と学修成果の可視化を大学ごとに実装
- **4層** — **標準仕様の外部連携**
  出席・動画・本人確認などを標準仕様で接続

「できない」ではなく「どの層を拡張するか」
当社は、これらの補完・強化ポイントを満たせるパートナーの選定や追加商材の組み合わせでSaaSのまま日本独自の運用に適合させていきます。

Canvas LMSを日本の大学における教育DXの共通基盤として機能させることが、私たちの提供価値です。

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

5．LMS移行で見落とされるポイント

重要なのは「導入できるか」ではなく「無理なく移行できるか」という視点

実際の更改で負担になること



- 教材移行
- コース移行
- ユーザー・履修情報の移行
- 教員への展開・サポート
- 並行運用・学期切替

成功のカギは移行負荷の見える化

移行を見据えたLMS選定 ～国内運用への適合と継続的成長を両立する

- 選定段階から移行の進め方・教員支援・スケジュールを具体化
- 移行支援ツールと移行ノウハウを活用し、段階的に移行
- 国内大学の運用に合った現実的なLMS更改を実現できる

LMS選定は、導入ではなく移行・定着・成長まで見据えて判断する。

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

クロージングメッセージ

LMS選定は製品選定ではなく、

学修基盤の中核をどう設計するかを考える段階へ

- 評価に含めるべき観点
  - ✓教員・学生にとっての使いやすさ、運用負荷、システム連携
  - ✓教育DX・AI活用への発展性
  - ✓国内運用への適合、教員の活用定着、移行負荷の軽減
  - ✓有事の学修データ保護と、授業再開を支える対応力

- 本日のストーリー
  - ✓選定の勘所 → プラットフォーム論 → Canvas LMS → 移行成功のポイント



Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

Panasonic

Powered by Digital

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.